



立教大学発のシフォンケーキ「セントポール」発売！

～ 夏には美しい緑のツタで覆われ、秋には紅葉する“立教の魅力”を表現 ～

池袋の地域活性化を目的に、立教大学経済学部廣江ゼミナールの学生が、池袋の魅力をアピールするオリジナルのシフォンケーキ「セントポール」を開発した。本日から区内のショップ「ラ・ファミーユ」で販売を始めた。発売初日の今日は、早々に完売、メンバーは定番商品化をめざしている。

廣江ゼミナールでは、地元西池袋を舞台に区民・企業・行政と協働して「地域活性化事業の提案・実施」を行っている。今回のシフォンケーキ企画は、同ゼミ経済学部2年わいわい art 班の5名によるもの。地域に愛されてきた西池袋の顔のひとつ「立教大学のキャンパス」をイメージした地域ブランド品を開発、地域で販売することで街全体を盛り上げようと考えている。

<p>コンセプト</p>	<p>立教大学のキャンパスが人を惹きつける理由、「季節感」と「伝統的な建物」を表現した。シフォンケーキ店「ラ・ファミーユ」(西池袋 2-36-10 小沢照美店長)と共同開発した製品。ベースとなる生地はイチゴ風味で、夏の緑を蓬で表現、ピスタチオの粒も。また、半分からは秋を表現して変化するツタの色赤をラズベリーの实で表している。</p>	
<p>製品の販売 日程</p>	<p>オリジナルシフォンケーキ「セントポール」は、1 ホール 7 号 3,800 円。1 切れで 320 円。 本日から同店で販売が開始。また、立教大学の学園祭で 11 月 2・3 日に販売の予定。</p>	
<p>開発までの 苦労話など</p>	<p>廣江彰教授（経済学部経済政策学科）から現 2 年生に与えられた課題は「立教のオシャレ（魅力）」を形にすること。坂井理夏さん（20）は、「約 10 年間のスクラップや映画を調べて、雑誌などに紹介された立教のイメージやキャッチコピーから、立教の魅力は『伝統的な建物と、季節による変化』だと考えました」と話す。</p> <p>つぎに、商品開発でも試行錯誤があった。平野由夏さん（20）は、「はじめは盆栽とかも考えましたが、皆さんに手にとってもらえて、親しまれる食べ物にする事が決まりました」と語る。ゼリーや学食なども考えたが、以前から大学では知られているシフォンケーキ店ラ・ファミーユの協賛を得たのだという。</p> <p>年内の販売は決定しているが、今後同店での販売継続は売れ行きしだい。メンバーは、パンフレットを配布し、商品を多くの人に知ってもらい「池袋と言えば『立教のシフォンケーキ』と言われるようにしたい」と胸を張る。</p>	
<p>背景 補足事項</p>	<p>* 廣江ゼミナールでは、大学のロゴ入り携帯電話用フィルム、池袋味のビールの開発や、自分の好きな池袋を撮影した写真展、池袋西口公園を T シャツフラッグで彩るイベントなどの実績がある。</p>	
<p>写真 * 写真はメールで送ります</p>	<p>わいわい art 班のメンバー</p> 	<p>本日発売の「セントポール」</p> 
<p>問合せ</p>	<p>立教大学廣江ゼミナール</p>	